



Weは英語で「わたしたち」という意味。男女共同参画を「わたしたちみんなで考え、みんなで進めていきたい」と願って名付けました。

新人消防士奮闘中

「毎日が勉強です」



本市で初めての女性消防士となった佐藤彩子さん

ることができました。

現在、県内では12人の女性消防士が活躍。本市では、佐藤さんが唯一の女性消防士です。「仕事で困ったことや悩みごとは、同じ現場に出動した先輩や年齢の近い先輩に相談しています。母親に聞いてもらうこともありませよ。率直な意見を言ってくれるので、とてもありがたいです」。県内の女性消防士の皆さんとの交流も、佐藤さんの心の支えとなる貴重な時間になっているそうです。

上司の畠山消防署長は、「救急の現場では、患者さんに細やかな配慮をするなど活躍しています。まだ先のことかもしれないですが、結婚や出産後もこの仕事を続けてもらいたいですね。女性だからといって特別扱いはしません。佐藤さんに憧れて2人、3人と女性消防士が続くように育てていきたいです」と期待しています。

「毎日が勉強」という佐藤さんの現在の目標は、救急救命士の資格を取ること。仕事に打ちこむ姿勢からは、消防へのあつい気持ち伝わってきます。今日も制服に着替えて気合を入れた佐藤さんは、市民の皆さんの暮らしを守るために頑張っていることでしょう。

婦人消防協力隊の

活動をご存じですか

婦人消防協力隊とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」を理念とした自主的な防災組織です。隊員の皆さんは消防演習や出初め式への参加のほか、住宅用火災警報器や消火器の共同購入による普及促進など、地域での防災意識を高める活動をしています。

また、災害時には火災の初期消火や避難所での炊き出しなども行う、頼もしい婦人消防協力隊の皆さん。地域の実情に詳しい利点を生かして、地域に密着した防災活動をしています。



消防演習で、力強く行進する婦人消防協力隊の皆さん

まちの中のいい話

毎年8月14日と16日の2日間、盛大に行われる「大迫あんどんまつり」。四台あるあんどん山車の一つ「若衆組」で、山車の制作から運行まで幅広く活躍されている伊藤春香さんにお話を聞きました。



伊藤 春香 さん (大迫町内川目)

魅力は点灯の瞬間

いつからあんどんの絵を描くようになったのですか。

伊藤さん 父親があんどんの制作に携わっていたので、小さいころから制作現場で遊んでいました。そのうちに紙はりや色塗りを手伝うようになり、自然と絵も描くようになりました。本

格的に描いたのは、中学2年生のときです。

建設関係の仕事をしていると伺いましたが、仕事を終えてからの準備作業は大変ではありませんか。

伊藤さん 作業は午後9時から10時ごろまでしています。夢中になるとあっという間に時間が過ぎてしまうので、あまり大変だと感じることはありません。むしろ、部活を終わってから作業をしていた高校時代の方が、今よりも大変でした。

絵を描くことの魅力は何ですか。

伊藤さん 昼と夜では、あんどんの見え方が全く違います。やはり見せ場は夜なので、明かりを灯した姿を想像しながら色を入れます。一番の醍醐味は、あんどん山車が点灯した瞬間ですね。10数年間描き続けていますが、毎年点灯の瞬間を目の当たりにすると、それまでの苦労が吹き飛んでしまいます。

今後の抱負を聞かせてください。

伊藤さん 若衆組の中では若い方ですが、20年ほど携わっているの

で、制作から運行までの大部分を把握できるようになりました。昨年は、初めて音頭上げをさせてもらいましたよ。

これからの絵の腕前を磨きつつ、制作の細かいところから運行の全体的なことまで分かるようになりたいですね。今より大変になるかもしれませんが、得られるものが大きいと思います。今後もしも楽しみながら、あんどんまつりにかかわっていききたいです。



あんどんの絵に墨入れをする伊藤さん。今年も、仲間と制作したあんどん山車が、大迫のまちを彩りました。

編集サポーターの皆さんを紹介します



編集サポーターの皆さん。(前列左より)菅原重子さん、高橋奏恵さん、小原康子さん(後列)吉田幹子さん、藤根悦子さん、藤本真津子さん

これまで男女共同参画情報紙「We」は10月と3月の年2回、発行していましたが、本年度は「広報はなまき」の紙面上に掲載しました。

このコーナーは取材から原稿の作成まで、6人の編集サポーターと担当課職員が協働で紙面づくりをしています。今後、皆さんに親しんでもらえるような男女共同参画情報をお届けしますので、よろしくお願ひします。

問い合わせ

本庁市民協働・男女参画推進課 (024-21111内線420)